

証し-李晟源神学生

私は、東京神学大学の学部3年に在籍しています。私はキリスト教とは無縁の家庭で生まれ育ちました。1998年大学1年の時、同級生の紹介で教会に通い始めました。当時の私はキリスト教を通して、自分の人生の悩みを解決してもらえらば、という思いで礼拝に出席していました。大学2年の時、空軍兵として兵役につき、軍隊の伝道を目的とする軍基地内にある教会で2000年洗礼を受けました。

2004年にワーキングホリデービザで来日しました。その間、出席していた教会の礼拝と、毎週の聖書学び、そして先輩たちと信仰の交わりを通して、神の無条件的な愛を体験しました。私の心の支えとなった聖書箇所は「わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。」(ローマの信徒への手紙5章3節~4節)という言葉です。私にとって毎日が苦難の連続でしたが、神様は「私と共におられる」ことを少しばかりですが、感じました。神様は愛をもって「私の未来が明るくなるように導いてくださっている」と信じるようになりました。

帰国後、まじめに礼拝を守っていましたが、「夢を追いかける生活」は、さほど変わっていませんでした。卒業後、2007年4月「美農」という貿易会社に就職し、日本との取引を担当する部署で働いていました。自分の力は伸びていき、やりがいもある社会人生活を送っていました。

それなり満足している私の生活に、神様は訪ね、呼びかけてくださいました。

それは2007年12月にあった日本宣教報告大会での出来事です。日本人宣教師は、イザヤ預言者の御言葉をもって説教し、「日本に来てイエス・キリストの福音を伝えようと志す方は、手を挙げてください」と問いかけました。説教を通して、神様がもう一度呼び掛けておられることを心から受け止めました。献身の志が与えられた私は手を上げ、立ち上がりました。イザヤ書6章8節の言葉「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」と祈りました。そして、献身の志を確かめる祈りの時間を6ヶ月間くらい繰り返しました。そして、私は勤めていた会社を退職し、2009年3月、韓国の神学大学院に入学しました。2015年11月から、ソウル市にある「Chamvit教会(真の光という意味)」に副牧師として招かれ、「青年・大学生の教育を担当」してきました。けれどもその間も、神様は私が「日本への伝道」という思いをもって決断したことを、忘れないように時折思い起こさせてくださいました。そしてその思いは強くなるばかりでしたので、2017年の夏に意を決して、Chamvit教会を辞任し、日本宣教の準備をしてきました。

昨年は東京神学大学院・前期課程の受験をしましたが、入学ができませんでした。しかしある先輩牧師の紹介により、キリスト教的視点でダイエット関連の事業をしている会社で、土曜日に聖書の勉強の指導を一年間することが出来ました。しかしながら就労ビザの申請を2回も行いましたが、滞在許可のビザが取得できず、帰国せ

ねばならない状況になりました。悩みと不安を抱えて気力を失いそうになっていた私を、神様は再度、訪ねてくださいました。洗足教会の新年礼拝でイザヤ書43章19節「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか」。約2年間の日本での生活が無駄ではないこと、2007年の決断つまり日本の宣教師の語るイザヤ書の御言葉により献身を志し、それを目指して走ってきたこの12年あまりの生活を神様は覚えてくださいました。さらに私と共に神様は「新しいことを行っている、それがもう芽生えている」ということを信じさせてくださり、神様を信頼する信仰を新たにしてくださいました。私は再度、二月に東京神学大学神学部編入試験を受けました。そして今、神の言葉の語り手として遣わされる時のために学びの時を過ごしています。

神様は二十歳の時、私を訪ねてくださいました。そして、今日に至るまで私と共におられます。途方に暮れていた時も、成功のときも！このほぼ19年の間、神様は、私が知っている以上に私を赦し、私が思っている以上に私を愛し、私が自分について知っている以上に私を認めてくださいます。そして正しい道を選択できるように、御言葉の明かりを、私の手元に置いてくださいます。これからも神様に愛されて神を愛し、教会と信徒に奉仕する自分になりたいと願っています。有難うございます。祈らせていただきます。

天の父なる神様、今日豊かな神様の恵みと導きを証しすることができ、感謝いたします。これからもあなたの御言葉を通して私が主と共に生きることが出来ますように力つけてください。そして、洗足教会が聖霊に豊かに満たされますようにお祈りします。貴い主イエスキリストのみ名を通しみ前に捧げいたします。